

運動部関東出場続出

柔道 奮闘するも初戦敗退 相撲 団体ベスト16



柔道出場選手

柔道の関東大会が、6月1、2日にALS OKぐんまアリーナで開催された。5月11日に開催された県総体では、団体戦で関東大会出場を決めたものの、9位という悔しい結果となった。そのため、1回戦の対戦相手は今大会の優勝校である強豪日体大荏原(東京)だった。高崎は奮戦するも、シード校相手に0-3で敗退した。福田光治君(2の6)は、「組み合わせが悪かった。県総体で、もう少し良い結果を残したかった」と語り、今後については「練習をしっかりして筋力をつけて、県大会でベスト4をとれるようにしたい。また、関東や全国でも勝てるようになりたい」と語った。

相撲は6月8、9日に東京都のエイトホールにて、個人戦、団体戦それぞれ熱戦が繰り広げられた。団体戦では、1回戦で自由が丘学園(東京)に4-1で快勝した。続く秩父農工科学(埼玉)、大田原(栃木)戦でも3-2で勝利し予選を全勝で突破した。決勝トーナメント1回戦では、優勝校である埼玉栄(埼玉)と対戦し0-5で完敗し、ベスト16となった。個人戦では、軽中量級で福田君が準優勝、佐谷戸恒太君(3の5)が3位入賞を果たした。福田君は、「顧問の先生に優勝できると言われていたので、あまり緊張せず試合をすることができた」と語り、「冬に基礎的な体幹や体力をつけるため、野球部やバレー部、ラグビー部などと合同練習を行なった。その時の柔道の練習を相撲に繋げ、生かすことができた。柔道特有の投げ技なども相撲の実戦で使うことができて良かった」と今までの練習を振り返った。

り返った。また、「短い時間の練習でも、頭を使って練習メニューを考えて実践し、県1位をこれからもキープしていきたい」と今後の目標を語った。最後に「やはり1人では大変な練習や、大会は乗り越えられなかった。助けてくれた仲間たちに感謝したい」と仲間への思いを口にした。(鈴木)



翠巒 Mini Press 第161号 2019/7/19
編集・発行 高崎高校新聞部

紙面紹介
・表面 運動部関東大会特集
・裏面 丸茂太一新生徒会長
タコフエス開催

軟式野球 ベスト8



フルスイングする高崎選手

軟式野球部は5月25日から28日まで行なわれた春季関東地区高等学校軟式野球大会に出場した。1回戦は、多摩市一本杉球場で千葉商科大附属(千葉)と対戦し、6-1で勝利した。立川市営立川球場で行なわれた2回戦では、駒場東邦(東京)と対戦し、2-4で惜しくも敗れた。部長の大手颯人君(3の8)は今回の大会について、「秋の関東大会ではベスト8止まりだったので、ベスト4進出を目指していた。しかし、今回もベスト8止まりになってしまい、悔しい。守備では、ミスから失点したり、攻撃では、チャンスを作っても、打球が続かず、得点に繋がらなかったり、堅実なプレーをすることが自分たちのチームらしさが出し切れなかった」と振り返った。

ソフトテニス 個人ベスト16



プレーする百澤君(写真は県総体)

6月1日に埼玉県狭山智光山公園テニスコートでソフトテニスの関東大会個人戦が行なわれた。本校からは、大澤達矢君(3の4)と百澤一真君(3の3)が出場した。2人は、1回戦で東京実業(東京)、2回戦で甲府南(山梨)、3回戦で明秀学園日立(茨城)、4回戦で横浜創英(神奈川)、5回戦で木更津総合(千葉)と対戦した。5回戦は1-4で惜しくも敗れたが、見事ベスト16という結果を残した。

今回の大会について、後衛の大澤君と前衛の百澤君は「5回戦まで進めるとは思っていなかったのが驚いた。勝ち進むにつれ自信が付き、楽しくプレーができた」と話した。また、ソフトテニス部の後を担う後輩に向けて、大澤君は「限られた時間の中で何ができるのかを考え、内容の濃い練習をすると良いと思う。この先の大会で良い結果を残してほしい」と、百澤君は「自分の能力を信じて、時間がないことを言い訳にせず、日々の練習を頑張してほしい」とそれぞれメッセージを送った。(五十嵐)

NOTE

「海賊」。広辞苑第7版では「海上を横行し、往來の船や沿岸地方を襲って財貨を強奪する盗賊」と説明されている。一方で、イランと日本のために尽力し、「海賊」と呼ばれた男が存在した。出光興産の創業者、出光佐三氏である。彼は戦前、それまでの慣習を無視し、消費者のために他企業よりも安く石油を販売した。この型破りな行動から同業者たちに恐れられ、「海賊」と呼ばれるようになった。▼1953年、彼は世界を驚かせる。タンカーを派遣してイランから直接、石油を輸入し販売したのだ。世にいう「日章丸事件」である。当時、イランは英国に占有されていた石油の国有化を強行。これにより関係が悪化し、英国海軍はペルシア湾を封鎖した。そんな中、イランに向かうタンカーは拿捕される危険性があったが、輸入に成功した。この行動は大国の搾取に苦しむ日本とイラン国民を勇気づけた▼そんな彼が生涯の中で貫いた教えは「士魂商才」という言葉だ。先を見通す商人の才と礼節を重んじる武士の精神を兼ね備えるという意味を持つ。彼の成功はこの教えによるものである。誰よりも早く、石炭産業の衰退と、石油がそれに取って代わることを予測した▼この「士魂商才」の教えは、60年経った今でも企業経営以外のことにも広く通じるように感じる。情報化が進んだ現代を最前線で駆け抜けていくことになるであろう高生にも活かせるのではないだろうか。(茂木)

生徒会長に丸茂太一君

学習環境の改善で快適な学校生活を

6月17日に全日制生徒会長選挙が行なわれた。今年も立候補者が1人だったため、丸茂太一君(2の3)の信任投票となり、過半数以上の得票をもって就任した。

丸茂君は政権公約として「学習環境を改善することで、生徒が快適で充実した生活を送れるようにする」とこと、「オープンスクールでの満足度を向上させる」ことを掲げた。

生徒会長に就任した後の活動について話を聞くと、「ハードな面とソフトな面の両方を改善していきたい。ハードな面とは、生徒会も気付きやす



生徒会長に就任した後の活動について話を聞くと、「ハードな面とソフトな面の両方を改善していきたい。ハードな面とは、生徒会も気付きやす

い大きな課題のことで、例えば視聴覚室の利用者が多く、自習室が不足していることが挙げられる。この問題に対しては、2の9や3の9などの空き教室を開放しようと考えている。また、ソフトな面とは、生徒会が気付きにくい小さな課題のことで、生徒会と一般生との距離を縮め、「コミュニケーションを図るなどして問題点を見つけ、解決策を模索していこうと思う」と語った。

また、生徒会長に立候補した理由を聞くと、「1年間生徒会本部役員として先輩と一緒に活動し、これから取り組

みたいことなどが浮かんできた。ちょうどその時に生徒会長選挙の話があり、立候補したら自分の可能性が広がるのではないかと思い、本能に従って挑戦した」と話した。最後に、丸茂

3年に1度の参議院選挙が迫っている。憲法改正に意欲を見せる安倍晋三首相としては正念場になりそうだ。近年では若者ほど投票率が低い。このままでは高齢者向けの政策を主張する政治家が増えていく懸念が出てくる。

投票率向上のために

なぜ、若者の投票率は低いのだろうか。考えられるのは「政治への無関心」だ。労働問題や年金問題など今の若者に直結する課題が山積する一方で、どうしても若者が目をつけていないのが現状だ。さらに、「政治家との距離の遠さ」も理由として挙げられる。

なかには、賄賂や口利きなどの問題を通して、政治家に嫌悪感を持ち、政治への関心が低くなっている有権者もいる。この状況の改善のためにどうするか、若者に向けたネット戦略も有効だと思う。ネットで気軽に投票できるようにすれば、「面倒」を理由に投票に行かない人も投票するだろう。また、投票者に粗品を用

意するのも手だ。粗品目当てでも、あくまで投票所に行くきっかけになる。投票への参加は、有権者にとって自分の意見が政治に反映されることでもあり、政治家にとっては自分の意見が幅広い世代に知られるチャンスに繋がる。

先日、高崎高校では、生徒会長選挙が行なわれた。高校の生徒会長選挙は国の選挙と比べれば規模は小さい。しかし、今回の選挙を通して、有権者資格が18歳に引き下げられた理由について考えるきっかけにしてみてはどうだろうか。(五十嵐)

多胡さんは「前回と比べて確実に表現力、連想力が上がっている。見ていて何度か涙が出た。音楽には人の心を支える力がある。上手い下手で選ぶオーディションもあるが、このオーディションでは一番魂がこもっていた3組を選んだ。もちろん演奏が上手に越したことはないが、本当に感動的な歌は演奏者の技術と関係なく伝わると思う」と話した。(関原)

TAGO STUDIO TAKASAKI MUSIC FESTIVAL 2019 開催

多胡邦夫さん

オーディション優秀者



6月15、16日に「TAGO STUDIO TAKASAKI MUSIC FESTIVAL 2019」(以下、タゴフェス)が開催された。15日にアマチュアによるオーディションが行なわれ、それを勝ち抜くと16日にプロと共に高崎アリーナで演奏できる。主催者である多胡邦夫さんに話を聞いた。



6月15日にclub FLEZでオーディションが行なわれた。一次審査を通過した3部門25組が参加した。カラオケ部門で選ばれたのは、ONE OK ROCKの「完全感覚Dreamer」を歌った高橋明日香さんだった。「発表時は信じられなかった。他の人に比べて、若く、経験も浅い。本当に自分で良いのかという思いもあったが嬉しかった。小学5年生の時から父の勧めでカラオケ大会などに参加していて、今回も父の勧めで出場した。本番のことは何も覚えていないが、練習通りに歌えたと思う。将来はロックバンドのボーカルになりたい」。シンガーソングライター部

君は高生に向けて「学校全体が前進できるように、皆さんも学校に対して何ができるのか考えてほしい」と語った。(萩原)

「このイベントを開催しようと思ったきっかけは、私が地元で音楽活動をしてきた時、コンテストなどはアマチュアにとつての登竜門であった。そのため、誰もが参加しやすいコンテストを作り、プロになる機会を提供したいと思ったからだ。また、タゴスタジオ5周年の節目もあって、支えて下さる方々に恩返ししたいと思った。

今回のタゴフェスの見どころは、アマチュアによるフレッシュな演奏、「くるり」をはじめとするプロの演奏が見だ。さらに、タゴスタジオでレコーディング経験のある東京農業大学第二高等学校吹奏楽部の皆さんにも来ていただく。

門では、「たまねぎのうた」を歌ったきえさんが選ばれた。力強い歌声やぐらをかいて歌う独特のスタイルは、多胡さんの心を動かした。きえさんは「私が勤めている保育園の園長先生の勧めで応募した。選ばれてほっとした。歌っている時は緊張の余り倒れてしまっていた。自分にとって音楽は趣味。今後、楽しく歌い続けたい」と話した。

バンド部門では、激しいライブパフォーマンスが会場を沸かせた。「技術では1番劣っていたが、最も魂のこもったバンドだった」と多胡さんが称賛した沼田市出身の4人組バンド、The Gentle Flower が選ばれた。ボーカルでギターの金子大伸さんは「結成からまだ1年しか経っていないが、地元群馬県民として負けられないと思った。ステージ上で嘘をついたくなかったので、本心だけを表現した。この先、楽しいことばかりではないと思うが、困難を乗り越えて、4人で武道館のステージに立ちたい」と話した。